

資料 16

警備会社の当日の動き

《朝霧歩道橋を含む第3警備区担当の警備会社》

「警備結果報告書より抜粋」

- 14:30 ・全体朝礼点呼、打ち合わせ等一切無し
- 17:00 ・本部に近隣住民より、朝霧改札口の混雑が未対策の指摘有り
・連絡通路の雑踏整理依頼をN氏より受ける
・広報による歩道通行部拡幅処置、入場路分散、足元注意、歩行者歩道通行誘導
- 17:30 ・一般の人より朝霧駅北側が非常に混雑し迷惑、危険との通報
・警戒警備の依頼があり、歩行者の安全確保のため陸橋中央部より移動
- 18:00 ・本部より、遊撃隊朝霧駅北側に召集指令・広報によるアクセスルート回避迂回の広報指示、実行確認
・N氏が本部に陸橋中央部進入一時遮断計画の実行準備依頼を行う会話を耳にする
- 18:15 ・ニシカンの警備員1名が無線機2台を持って臨場
・通路区分けの相談した後、本部ニシカン警備員連絡
・本部連絡の結果、警察の許可必要との返答警察の臨場待つが臨場無し
・本部からの連絡、指示、状況確認の連絡無し
- 18:50 ・N氏より、花火打ち上げ終了前に来場者帰路迂回広報の指示を受ける
- 19:00 ・警察官臨場、警察官に状況説明と現状危機回避のため通路分断又は入場制限を強制施行してほしいと要望
・警察官「様子を見る」と返答
・朝霧陸橋中央部に機動隊5名、ニシカン2名到着。遮断のため出勤
・臨場の結果、分断、遮断計画実行せず
- 19:45 ・隊長に警察の介入を要請
・本部に発報依頼してもらったが、連絡無く実行されなかった
・再度臨場警察官に通行制限依頼「今すいているうちに、強制的に通行制限をする事を許可してほしい」警察官「花火が終わってからにしよう」
- 20:00 ・N氏より花火終了前に帰路迂回誘導の指示を受ける
・朝霧陸橋階段下にて帰路迂回誘導開始

- 20:30
 - ・花火終了後、朝霧駅側通路入口において一時的に警備独自で入場規制（４名）
 - ・警備本部より連絡あり「陸橋内部において、将棋倒しの事案確認せよ」の発報有り
 - ・事案確認指示「事案の発生無し」本部へ連絡
 - ・警察官より入場規制の許可を得る。警察の協力無し。規制したが、観客が露店が閉まるなど罵声を浴びせるばかりで強制できず
 - ・警察のような権限が無いので、それ以上なすすべがなかった
- 20:45
 - ・警察官が子供を抱えて走ってくるのが見え、その後次々と警察官が事故負傷者の搬出にあたる
 - ・陸橋海岸方面階段登り口で、機動隊進入制限規制（約８人）。その後市の職員も参加
- 21:00
 - ・警察官４～５人通路内に入場中から子供を運び出す
 - ・本部より、緊急車両接近通路確保、適切誘導の発報あり。大蔵海岸交差点より進入せず通過

「警備員個々の報告書」

この文中、３ ２等の表記は警備実施計画書に定める警備員の固定配置位置を表す。

（X1・3 - 2・歩道橋南階段下）

- ・午後３時から階段下にて「足元にご注意して下さい。」「立ち止まらないようお願いします。」の呼びかけ等の誘導に当たっていた。
- ・その後X所長の指示で、通路での帰途につく人の誘導に当たる。

（X2・3 - 3・歩道橋上エレベータ前）

- ・警備配置場所が階段近くだったので、足元注意や流れが止まらないように、トラメガで誘導していた。
- ・花火が始まって数十分後、罵声を浴びながらエレベータ付近まで押された。それから周囲の確認ができなくなり、周囲の来場者の声で将棋倒しがあったと聞いた。時間は全く確認できなかった。
- ・途中（花火の最中）明石の所長（X所長）に連絡をしたが、電話が通じなかった。

（X3・3 - 4・歩道橋上中央南寄り）

- ・最初は歩道橋の真中に立ち、花火大会会場へと向かう人々に対し、足元注意を呼びかける役目であった。
- ・18時過ぎくらいに食事休憩に行こうとすると、駅前のロータリー付近で一般の方から「駅を降りて花火会場へと向かう人たちが歩道から溢れ、口

ータリー（車道）を歩いていこうとしているので、ロータリー付近にも警備員を配置できないか。」と言われたので、Xさんにその旨伝え、食事へと行った。

- ・約 30 分後、18 時 40 分くらいに現場へと戻り、ロータリー前にいたXさんと交代した。
- ・以後私はロータリーに立ち、花火大会会場へと向かう人々に「大変混雑しており足元が危険なので、足元には十分注意してお進みください。」等の注意を呼びかけていた。
- ・その後、花火の打ち上げが終了し、正確な時間は定かではないが、21 時くらいには負傷者と思われる人が、歩道橋から駅前ロータリーへと運び出されるのを見て、歩道橋の北側へと移動し、負傷者の搬送が円滑に行くよう「通路を開けてください。」と 23 時 50 分頃まで、周りの人に協力を求めていた。

(X4・3 - 5・歩道橋上北側)

- ・午後 2 時 30 分朝霧駅着
- ・午後 3 時から午後 6 時 配置場所（歩道橋北側）にて警備開始。人出はあるものの、たいした混雑も無く歩道橋も南側階段もスムーズに流れる。
- ・午後 6 時 30 分、朝霧駅のプラットホーム、階段、改札口が大混雑になり、帰りの切符を買う人で駅前も大混雑するも、歩道橋北側は広い為か、まだたいした混雑はせずに人は流れていた。
- ・その頃、北側ロータリーに駐車していた警備用のバスから 7～8 人の警察官が降りてきて、歩道橋北側の入口に立ち、その内の 2～3 人が駅から歩道橋に向かう 5～6 段の階段のそばに立つ。
- ・午後 7 時から午後 7 時 45 分 歩道橋北側も大混雑となり、ほとんど人が流れなくなり、南側から北側への通路は全く確保できなくなる。歩道橋入口付近には、警察官が 3～4 人と他社の警備員 3～4 人、当社の警備員（遊撃隊）4～5 人がいたように思う。
- ・見物客に「海岸までどのくらいかかるか。」とよく聞かれたので、「30 分以上はかかりそうなので、やめた方がいいですよ。」と答える。
- ・午後 7 時 45 分、花火が開始されると、見物客は全く動かなくなり、その場で花火見物をしだす。
- ・午後 8 時過ぎくらいから戻ってくる人が出始め、その人たちのために、歩道橋北側入口から駅までの通路は、遊撃隊の人と確保する。
- ・午後 8 時 20 分頃から、花火が終わると人の波が押し寄せると思い、ハンドマイクを持って歩道橋北側の階段付近で待機する。
- ・午後 8 時 30 分、花火大会終了。歩道橋北側付近にいた見物客は、JR やバス乗り場に向かい始めるもたいした混雑は無く、午後 8 時 45 分頃になっても、歩道橋南側からの人の流れがたいしたことが無いので不審に思い歩道橋に入ると、子どもを抱いた警官が走ってくるのが見え、それから

次々と待機していた警官が歩道橋内に入っていき、負傷者の救出に当たりだした。我々も、負傷者の搬送通路の確保と南側への通行の禁止を、ハンドマイクで呼びかける。

- ・午後 10 時 30 分から駅前ロータリーで、消防車、救急車の周辺の警備に移り、午後 11 時 45 分に勤務終了。

(X 5 ・ 3 - 1 5 ・ 朝霧駅改札北側ロータリー)

- ・私は、駅ロータリーの駐禁排除に当たっていたので、事故のことは救急車と消防車が到着してから知った。(時間は 21 時前だと思う。)
- ・ロータリー内に駐車する車は無かったので、歩道橋入口まで行った。「出口付近で人がバタバタ倒れている。」と他の警備員から聞き、歩を進め半分まで行くと、歩道橋の外の通路に小学生 2 名が足を押さえて座り込んでいた。
- ・下は 2 号線であり、大変危険なので、歩道橋出口横の亚克力板の外れたところから外に出て救出した。

(X 6 ・ 遊撃隊 ・ 西瓜配布所 本部 歩道橋 駅北側ロータリー)

- ・ 15 時前、固定配置部隊が定位置につく。
- ・その後我々は巡回に。隊員のトイレ等のため数箇所交代。
- ・本部より西瓜無料配布所での人員整理の要請を受けて、X 10 隊員と配布完了まで警備を行う。
- ・その後一旦本部へ戻る。お茶、タバコ一服。本部要請で、X 8、X 7、X 9 の 3 名が警察とともに駅へ向かう。X 10 と私も歩道橋に向かう。人は多いものの混乱も無く、人波は駅から海岸へ流れている。ただ、海岸側は階段から露店までの距離も短く、流れが様々な方向にあり混雑していた。
- ・我々は、歩道橋上の一番海岸の階段付近にて、海岸から駅へ向かう人々の通路を確保するために、人々の誘導を行う。当初、階段の一番海側の端をその通路にしていたが、逆の端から上ってくるようになったので、その先頭で誘導しながら駅まで向かう。
- ・駅側で皆と合流。間もなく花火が始まる。人の流れが止まり、歩道橋上の人々は皆立ち止まったまま花火を見物していた。
- ・花火が終了して間もなく救急車が来たので、何かあったのかと聞いていたら、X 10 隊員ともう 1 人警備員が倒れていた。
- ・その時点では、歩道橋上に警備員は 1 人 (X 2) しかいなかったと思う。私は歩道橋上を海の方に向かって進む。駅へ向かう人々が西側の端を進んできたので、その通路を確保するため進んでいると、歩道橋の屋根に乗って駅側に進んでくる若者数名を発見し、X 8 に連絡。機動隊が来るとの事。人々が「戻れ戻れ」と言っている声が聞こえる。「戻ってください。」と言いながら駅方面へ向かう。
- ・やや混雑が無くなってから歩道橋上を海の方へ行くと、歩道橋の外、西側

を歩いている男の子2人を発見。中学、高校くらいの女の子が声をかけている。1人の男の子は足を痛めているようなので、声をかけて座ってじっとしているように指示。

- ・ X10 隊員が近くにいたので、助けを呼んでくるように頼む。時間が経っても誰もこず、そのうちX5 隊員を発見。助け出せる場所を探すように頼む。X5 隊員が海側から入れる場所を見つけ助け出す。
- ・ その子を機動隊に預け、再び駅側に戻る。その後は駅側で救助者の通路を確保するために誘導。

(X7・遊撃隊・場所不明)

- ・ 改めてイベント警備の難しさを思い知らされた。人の協力を求めて人を動かすことは、非常に難しい。人ごみの中どんな状況になっているのか把握できていなかった。
- ・ あの狭い歩道橋の上で3~4千人もの人がいたのかと思うとぞっとする。そんな中私の見る限り、警備員の数、警察の数が少なすぎるように見えたのは、私だけではなかったはずだ。TVでも何度も報道されていたように、思い込みの甘さもあったのでは。
- ・ 何人もの人に「他に道は無いのか」と聞かれて、あまり道に詳しくないのもあって、その辺のこととか色々もっと事前に打合せ等、密にしておけばよかった。
- ・ 救急施設の設置案内にしる、ガードマンが把握できていなかったと思う。真夏の炎天下、このような事態は予測できたのでは？今考えると、準備不足だったのではと思われることがいっぱいあったように思う。

(X8・遊撃隊長・場所不明)

- ・ 今回のイベントで悲惨な出来事が起きてしまった。女性、幼児、お年寄りたちが次々と救急テントに運ばれていく。意識が無い幼児を見た時、今回の事故の重大さを感じた。
- ・ 何故と言いたい、今回のイベントは始める前から予測できていたと思う。去年の大晦日(カウントダウン 2001)イベントは、一体何だったのか？大晦日のイベントの約3倍の観客が来ることが分かっているのに、同じ警備体制で行う警察、警備本部に違和感を感じる。もっと念入りに警備体制を組んでいたら、このような事故が起きなかったと思う。
- ・ さらに本社からの応援という形になっているが、実際はイベントの中心部に配置すること自体、無理があると思う。
- ・ 実際本社隊員は、11時ごろから集まり、12時出発、そしてあの猛暑、体力、精神的に限界だった。何人かの隊員からも、休憩、トイレ、食事など不平、不満が飛び交って、押さえるので必死だった。
- ・ X11氏から、休憩などは遊撃隊でカバーしてくれと言われていたが、会場の警備本部に行くと、休憩は無し、遊撃隊はフル出勤状態で、何人かの

隊員はダウンする事態までいていた。

- ・もっと積極的に警察、ニシカンが危険な場所、中心部に出動してほしかった。もう二度とこのような重大事故が起きないように、警察、警備会社がきっちりとした体制をとってもらいたい。

(X9・遊撃隊・本部 歩道橋 駅北側ロータリー)

- ・私が事故のあった歩道橋を初めて渡り、JR 朝霧駅に着いたのは花火が打ち上がる 1 時間半前だったと思う。
- ・その時点で既に橋はすし詰め状態で、群れとは反対方向へ向かうのは大変困難で、困いづたいに進むのがやっとであった。
- ・駅側の橋の入口付近に制帽を被った警備員(たぶんニシカンの人だと思う)が 1 人だけで警官の姿は無かった。「何故橋の通路は行き帰りを区切らないのだろう」と疑問に思った。
- ・その後私は海岸から橋を渡ってきた人たちの通路確保のために、橋手前の階段横スロープで案内、注意を促していた。
- ・時間は覚えていないが、無線機を 2 台着けたニシカンの警備員の人の姿が見えたので、「通路を区切る方がいいのでは」と話をした。本部との連絡を取り合った結果、警察の方から許可がないと規制できないとのことで、警察の到着を待つことにした。この時点で、本部からの応援はもちろん、現状を伺う無線も無かった。戻りの観客からは次々と苦情や怒りの声があったが、謝ることでしか対応できなかった。
- ・19 時ごろ 2 人の警官が橋の入口に立った。話を伝えていたニシカンの警備員が見つからず、直接警官に通路の話をしたが、「流れているのでこのまま様子を見る。」と言われ、持ち場に戻った。隊長からの交渉、本部からの交渉も取り合ってもらえなかったようだ。
- ・花火が上がり始めたたとたん、橋を渡ろうとしていた人たちが足を止め、橋の手前でほとんどの人々が見始めた。橋のすし詰めも隙ができ、約 1 時間流れは止まっていた。「今のうちに少しずつ区切って行っては」と再度警官に言ったのだが、「花火が終わってからで・・・」と。今思えば、あの時点で区切れれば事故を防ぐことはできなかったとしても、小さく済んだのではと思う。この時点で、警官 2 名、橋入口付近警備員 4 名も橋の手前で待機。
- ・最後の花火が上がってからすぐだったと思うが、救急車が 1 台ロータリーへ。橋を渡ってきた X10 隊員とニシカンの警備員が倒れてしまい、救急車が。また橋へと人が流れ込みだしていて、戻ってきた人たちからは怒りの声ばかり。
- ・やっと通行止めの許可が。たぶん 1 台の救急車のおかげだったと思う。橋の入口でしばらく待ってもらおうようお願いしたが、「店が閉まる。」と隙を見つけては進んでいく人たちが多く、警察の強制的な行動も権限も無い私たちに、止めることは出来なかった。

- ・ 21 時少し前、4～5 人の警官が現れ橋の中へ。たぶんこの時事故が起きていて、中から通報があったのだと思う。流れが変わり、戻ってくる人が多くなった。
- ・ その中で女の子が 1 人迷子になっていて、母親が来るまでその場を離れ、付き添っていた。21 時 6 分に母親に会うことが出来たので、隊長（X8）に連絡をとると「至急ロータリーへ」とサイレンの音が聞こえ出し、次々と運び出される人の通路確保に当たった。
- ・ 大声を上げ、両手を広げ懸命に野次馬を押さえた。そんな中でも、われ先にと人々や見物のように立ち止まる人は多く、悲しかった。自分の無力さがつらかった。
- ・ 私は事故の現場を見ていない。何が起きたのかも野次馬の中からの会話で耳にした。私が見たのは、何度も行き交う担架と怪我を負った多くの人々、血まみれになりぐったりした子どもたち、思い出したくない。
- ・ 全ての人が救助された後、ロータリーへの部外者の進入を防ぐ為に立っていた。報道の人に「なにをやっていたのか」と責められたが、何も答えられなかった。
- ・ この事故は私たちの力不足でしょうか。私たちに強い権限があれば防ぐことは出来たのでしょうか。権限のある警察は、何故もっと早く許可をしてくれなかったのでしょうか。
- ・ 私たちは何度も通路規制の許可を求めました。警官の到着前に必要だと思い、事故が起こる 1 時間半前から許可を求めている。もっと早く・色々な思いが次から次と湧いてきて、反省、後悔でいっぱい。我先にと人々の醜い欲が起こした結果だとも思う。
- ・ 駅の周辺には緊急車両が待機していたのはパトカー 1 台だけでした。何もかもが祭りの大きさから考えて、動員数に合わせていなかったと思った。私たち警備員の数も、警察の対応も、祭りに来ていた人の頭の中身も足りなかったと思います。いつもどんな時にも、一番に被害に遭うのは子どもなのだと思い知らされた。

（ X 10・遊撃隊・歩道橋 駅北側ロータリー ）

- ・ 私が一番最初に立って誘導したのは、エレベータ近くの階段で、階段の一番上から 4, 5 段降りたところだ。一番最初に思ったのは、その人の多さだ。もし花火が上がったら、人の動きは完全に止まるだろうと思った。
- ・ 花火が上がるまでは、何とか海岸に向かうお客さんと駅に向かうお客さんは、何とかさばける状態だった。
- ・ しかし、花火が上がったら案の定人の動きは完全に止まり、自分も身動きが取れない状態になった。お客さんには「立ち止まらずにそのまま海岸の方へお進みください。」と叫んだが、花火の音でかき消された状態でもあり、完全にすし詰め状態のため、どうにも出来ない状態だった。
- ・ その内に駅に向かうお客さんから「駅の方へ誘導してほしい。」言われ誘

導したが、ほとんど進める状態ではなく、何とか駅の方へ向かおうとした。途中お客さんからは罵声と怒号を浴びた。「ちゃんと誘導しろ」「花火を中止しろ」「このままでは事故が起こるぞ」など。

- ・途中、携帯で隊長のX8に「警察を入れてでもどうにかしないと、大変なことになる」と連絡を入れました。(3回～4回)X8も本部には連絡を入れてくれたみたいだが、「警察も動いてくれないし、とても中に入れる状態ではない。」と言われた。
- ・そうこうするうちに、何とか駅の方へ出てきたが、出た途端に手足が痺れ、気分が悪くなり、倒れる寸前までいった。大人の私でさえこうだから、小さい子どもやお年よりの方は、とてもあの中にいたら長時間耐えられる状態では無かったと思う。
- ・個人の考えを言わせてもらおうと、今回の事故は完全な人災である。事前の計画をもっと内容のあるものにして、最悪の場合を想定したら、事故を防げたと思う。特に警察の対応には失望した。何の権限も無い警備員には、お客さんに対してはお願いすることしか出来ない。もっと早く動いていてくれたらと思うと残念だ。駅前で繰り広げられたあの光景は、一生忘れることが出来ない。

(X (明石営業所長)・自主参加・補足説明)

- ・3 - 1のX12は、歩道橋下エレベータ前に花火開始から終了までいた。事故後もそこにいた。
- ・3 - 2のX1は、18:30～19:00の間に海岸側から駅の方に向かっての客の誘導を行っており、自然に人波に押されて北側に出て、それっきり戻ってこなかった。
- ・3 - 15 X5、3 - 16 X13は、駅ロータリーで迂回誘導、足元注意の広報をしていたと思う。指示はしていない。
- ・当日N氏からの警備内容に関する具体的な話は、一切無かった。無線を受け取る時もそのような話はしていない。
- ・N氏とは今回初めて仕事をした。会社としては、花博でいっしょに仕事をしている。

《株 ニ シ カ ン》

「警備状況報告書の抜粋及び聴き取り調書」

- 14:30
- ・各社ごとに整列し、全体上番報告を行う。(Nによる訓示)
 - ・上番報告終了後、自主警備本部にて各警備区隊長に無線機を手渡す。(4wの無線機。遠方にはMCA無線機)

{ N } 「第3警備区担当の警備会社のX所長に15時ごろ『海岸側の警備はニシカンで持つので、歩道橋上と駅側の警備を持ってほしい。人が混んできたら迂回路の方への広報を徹底してほしい。』と言っている。」

18:00 ~ 18:30

・来場者の増加と滞留が見受けられたため、第3警備区担当の警備会社の固定配置3名の支援に、遊撃隊員6名(歩道橋南階段下1名・歩道橋上2名・朝霧駅前1名・その周辺2名)を配置し、交互通行の安全誘導及び案内広報の実施。

{ N } 「18:09にK地域官から歩道橋の階段と踊り場の所に人が溜まっていると言われ、遊撃隊5人を行かせた。」

{ Y1 } 「先にNが見て、遊撃隊を行かせた時にK地域官が言っていた。Nは『今行かせた。』と言っていた。」

18:30

・西瓜の無料配布所から遊撃隊長2名を歩道橋へ配置。(歩道橋南階段下1名・歩道橋上1名)

18:30 ~ 19:20

・N氏移動本部として、朝霧歩道橋南側へ状況把握及び現地での業務指導

・花火開始時刻に近づくに伴い、朝霧駅からの来場者が更に増加し、各隊長から会場内収容スペースが残り少ない、橋上(階段、踊り場)での停滞、滞留が多数、階段下は露店客で埋め尽くされている等の無線報告が相次ぐ。

{ N } 「19:00過ぎ、歩道橋が滞留していたので、帰るお客様は明石駅利用の案内を始めることをやっている。既に遊撃隊は全員階段下と歩道橋に配置しており、この時西瓜をもらって帰るお客さんが多かったので、朝霧駅に向かっての右側通行で誘導するよう指示した。」

{ Y1 } 「Y3ともう1人が橋の上に行き、広報を始め、少しずつ流れ出した。その段階で、Nが18:45頃に橋の南側の広場辺りまで行って、Y3に直接誘導するように指示した。」

19:25

・橋上の遊撃隊長から、退場者との接触等危険な状態であり、来場者の規制をするか警備資機材を使用して対応できないかとの依頼

・N氏より現地警察本部(K地域官)へ口頭にて現状報告、指示、対応依頼

・現地警察本部テント裏より歩道橋を見上げて「自然入場とし、必要としない。」との返答(階段からのスムーズな流れが確認できたため)

・警備本部より待機中の遊撃隊員2名を歩道橋下(海岸側)へ配置し、安全誘導の強化指示

	{ N } 「 19:25 非常に混んでおり、渋滞しているとの無線が入った。既にその時は 2 次導線へ回す広報をやっていたと思う。」
19:45	<ul style="list-style-type: none"> ・警備本部から各隊長へ無線にて、花火開始連絡 ・転倒防止、事故防止、歩道橋滞留防止の安全誘導、案内広報強化指示
	{ N } 「花火が上がると、お客さんの足が止まるので、前へ前へ進んでいただくように広報しろと指示を与えた。」
19:50	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋上の遊撃隊長から「花火開始時より歩道橋上、人がまったく動かない。」との報告受け、警備本部より本部員 1 名、遊撃隊員 1 名急行。ニシカン遊撃隊、第 3 警備区担当の警備会社の X 所長、市職員にて歩道橋下、露店通路、海岸入口へ分散配置し、迂回案内実施。階段下は露店客で埋め尽くされ人が流れない ・本部員急行の際、本部より「花火終了時（20：30）から警察官による朝霧歩道橋北から南への一方通行規制を開始するので、遊撃隊員は警察官の支援にあたるよう」指示（K 地域官との現地事前打ち合わせの上にて）
	{ Y 2 } 「花火が始まってすぐ、N さんに見に行けと言われたので、階段下まで拡声器をもって妹と行った。その時受けた指示の内容は、『橋にはもう上げるな、明石の方へ回せ』ということと、『花火が終われば規制を始めるから遊撃を集めて警察官と一緒にやってくれ』ということだった。階段下には Y 1 隊長と別の警備員がいた。最初は立ちふさがるように立っていたが、退場する客から怒られ、その後分散して立っていた。花火を見る人は西の方へ、退場する人は迂回、上にいる人には降りてください、と広報をした。その広報を客は聞いてくれない。殴られた。妹はビールをかけられた。」
	{ Y 1 } 「特に、駅に向かう人は全然聞いてくれない。階段の途中までは何回か上がって、立ち止まっている人に直接声をかけたりもした。警察官は、露店の辺りには巡回でいたようだが、階段下付近にはいなかった。」
	{ Y 2 } 「花火開始前から歩道橋中央部にいた Y 4 隊員から、『これ以上あげないように』との連絡があったし、Y 4 隊員はエレベーター前の第 3 警備区担当の警備員にもその旨を直接言ったようだ。」
20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋上の遊撃隊長から、朝霧歩道橋踊り場、階段付近滞留多数のため、「前が詰まっているので後ろを止めてほしい。警察要請できませんか。」との無線報告 ・N 氏より現地警察本部へ口頭報告、対応要請

- ・警察「現状把握のため、一時保留」「今情報を集めに見に行かしている。」
 - ・歩道橋海岸側で、警備員、市職員による明石方面への迂回案内実施中、下り誘導するも、花火観客と露店による停滞のため人は動かず、退場を求める人による殴る、ビールをかける等の警備員への受傷事故が発生する
- { N } 「20:03 Y3 隊長から、『陸橋上、人動かず。後から来るのをストップさせてくれ。』と聞いた。すぐに裏のテントを見るとK警視がいたので、走って行き、二人で橋上を見ながら『止めましょうか。』とお願いした。警視の答えは『今、見に行かしている。』『情報を取っている。』という返事があり、そのままになっている。この時、もっと強気に押しおけばと後悔している。」

- 20:30
- ・歩道橋上の警備員が倒れたとの他の警備員より無線報告。
 - ・朝霧歩道橋上の観客より階段下の警備員へ口々に「歩道橋上若い男が暴れている」「喧嘩をしている」「暴動が起きている」「けが人が多数、人が倒れている」「警察を呼んでほしい」「何とかしてほしい」等叫んでおり、また、橋上警備員より警備本部へ救急車要請の無線発報。
 - ・遊撃隊隊長へ客が「歩道橋内で喧嘩が発生していると友達から泣きながら携帯電話に入ってきた。」と申告。付近現場警察官（エレベータと露店の中間ぐらいに2人の警察官）へ口頭報告し、警察官が無線発報。その旨警備本部にも発報。
 - ・歩道橋内において、待ち客より警備員へ「子供が窒息するから助けてほしい」との申告あり。申告者のもとへ行こうとするが、人の多さで身動きが取れない。周りの客からは警備員への罵声と殴る、蹴る等の受傷事故が発生する。
 - ・受傷事故に遭いながらも、歩道橋内東側端をつたい朝霧駅方向へ進み、同橋内警備員2名と自主的に来場者の侵入規制を試みるが突破される
 - ・「このままでは子供が死んでしまう。何とかしてほしい」と朝霧駅前の警察官5名へ緊急報告と対応要請するも、無言で返答は得られず。子どもを助けに歩道橋内に戻る。
- 20:50
- ・階段下（海岸側）に機動隊到着。盾でバリケードを作り、その前に警備員が配置し一方通行規制を開始する
 - ・報告内容及び警備本部から、数名の人が朝霧歩道橋屋根に乗り上げているのを現認し再度現地警察本部へ口頭報告、機動隊員、レスキュー隊、救急車の派遣要請

- ・階段下(海岸側)から機動隊6名、市職員1名、警備員1名侵入。階段頂上の踊り場で、E Vホールを囲むように配置する。将棋倒し、又は倒れている人は確認できず
- ・群衆の中の若い男子(茶髪)が2名、奇声をあげて人の上に乗し、歩道橋の屋根に登るのを現認。「歩道橋の屋根に人が登っています」と報告。警備本部より「警察要請済」との返答。
- ・消防隊員が「降ろせ」と叫び、拡声器を持った機動隊員が「降りなさい」と注意したとたん、その若者が屋根から群衆の上に降り、周りの待ち客は悲鳴とパニック状態
- ・若者は人をかき分け、一直線に機動隊めがけて体当たりし、盾に殴りかかって何か叫んでいる。周りの人も口々に叫んでいる。機動隊員と押し問答し、階下へ走り去って行った。その後、前に続いて降りるよう案内中、多数の病人、負傷者が周りの人に抱えられて中から発見される
- ・歩道橋内においては、海岸側から機動隊が病人、負傷者を朝霧駅方向に搬送しているのを警備員が現認し、搬送通路の確保を実施この時点で初めて機動隊員より、朝霧駅からの入場規制をしてほしいと指示を受ける
- ・警察からの実施許可を受け、警察官1名臨場のもと、遊撃隊3名、第3警備区担当の警備会社2名と入場規制